

香川県多度津町「交流人口(住む人・来る人)の増加～“暮らす(たどりつく)”まち 多度津町～」

- ・多度津町は香川県の中部に位置し、北に風光明媚な瀬戸内海を望む港町である。明治には四国最初の鉄道が開通し、港とあわせて西讃の交通における要衝として発展を遂げた。昭和49年には臨海部造成地に約50の企業を誘致することで、現在のような工業の町へと変貌した。
- ・多度津町では社会人口が増加しているものの、その多くは町内の企業で働く外国人労働者であり、実際には若者や女性が地域外に流出している。
- ・このような背景を踏まえ、これからの多度津町は、若者や女性目線で魅力的なまちづくりに取り組んでいくことが重要である。
- ・これら問題意識のもと、行政のみならず、金融・商工団体や「多度津町まねきねこ課」メンバー（町役場の若手職員と町民で構成）等を交え、「交流人口の増加」に向けて、今後多度津町がとるべき方策についてワークショップを実施した。

実施概要

日時：平成30年12月26日（水）

会場：多度津町 町民健康センター2階

多目的ホール

テーマ：「交流人口(住む人・来る人)の増加
～“暮らす(たどりつく)”まち 多度津町～」

参加者：50名

(多度津町長、副町長、町職員、商工会議所、町民(まねきねこ課)、
香川県、近隣市町等)

有識者：

青山社中株式会社筆頭代表CEO/内閣府 クールジャパン・地域プロデューサー/総務省 地域力創造アドバイザー/ビジネス・ブレークスルー大学大学院 客員教授 朝比奈一郎氏

青山社中株式会社 グローバル事業担当/一般社団法人 日本と世界をつなぐ会 事務局長 水野 貴允氏

使用したRESASのデータ：

人口増減/地域経済循環図/全産業の構造/稼ぐ力分析/
流動人口メッシュ/滞在人口 等

その他の利用データ：

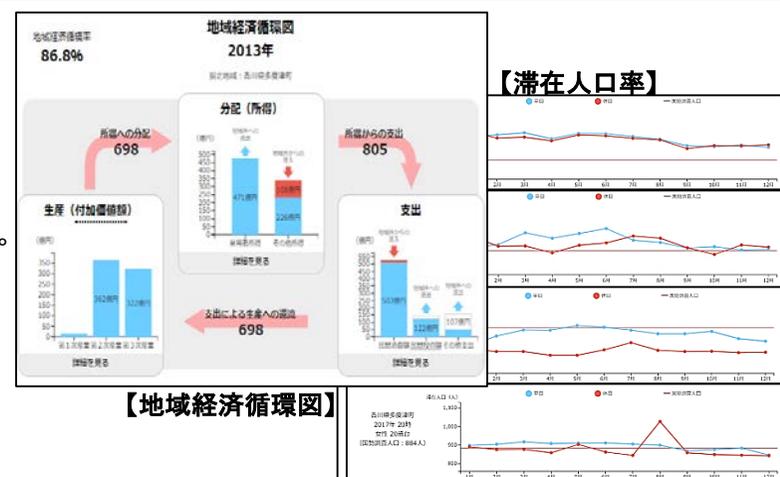
多度津町タウンプロモーション戦略

■代表的な分析手法

- ・地域経済循環マップの地域経済循環図により、町外へのお金の流出や町内へのお金の流入を把握。
- ・人口マップの人口増減、まちづくりマップの滞在人口率により、多度津町の人口動態を把握。

■分析結果

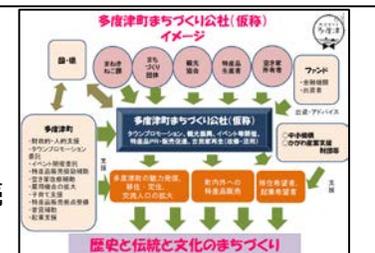
- ・地域経済循環図によると、「支出」の“その他支出”で所得が107億円域外に流出。支出の域外への流出の歯止めに課題。
- ・人口は、自然人口・社会人口ともに減少傾向。多度津町に住む20代の女性は、休日14時の時点で、その多くが町外に流出。移住・定住支援や交流人口の取り込みが課題。



施策提案：若者・女性目線での「魅力的」なまちづくり、 まちづくり公社(仮称)の設立

⇒まちづくり事業の横断組織「多度津町まちづくり公社(仮称)」を設立。

情報発信の一元化や移住・定住支援、生活関連産業の振興、地産品の販売等、滞在人口増加と地域資源を活かした外貨獲得を目指す。



会場の様子



多度津町職員による発表の様子